エディトリアル

川崎市立多摩病院救急災害医療センター 医長　野村 悠

医療機関が少ない地域の診療所では，小児科医かどうかにかかわらず地域で生活する子どもたちと接する場面は必ずあり，地元の学校医や園医を務めることもその一つである．しかし，われわれは診療所勤務前の初期研修や後期研修で学校医・園医の役割を学ぶことがあっただろうか？記憶の限りでは，学校医・園医と言えば『学生時代の地域実習での見学』もしくは『子どもの時に受けた健診の経験』，つまり医師になる前の体験によるイメージしか残っていないように思う．

診療所長としてどのように学校保健に関わるべきか認識できないまま，養護教諭や学校長，生徒の保護者など大人たちに接していた記憶を今では少し苦々しく感じている．

今回の特集では，非小児科医が診療所で学校医・園医を務める際に，どのような役割を期待され何をすればよいのかイメージできるような内容にした．

まずは総論として，学校医・園医の役割を俯瞰していただき，代表的な業務である健診についての解説および学校保健委員会について一般論を述べていただいた．続いて各論では，学校医・園医として必須の仕事ではないが，地域に携わる医師の視点から生まれる，『地元の子どもたちの成長を見守り支援する取り組み』について実践者から体験談やメッセージをいただいた．

総論の中では土肥直樹先生に学校医・園医の役割を法的な位置づけなどから俯瞰的に論じていただき，今野友貴先生からは健診内容の法的変遷および現在の健診項目とその対応について詳述いただいた．渡邉 幸先生には学校保健委員会の位置づけを分かりやすくご説明いただくとともに，久米島での取り組みをご紹介いただいた．

各論は各医師の人柄が伺え興味深い．花戸貴司先生は「医師として」と「人として」の両軸から地域の子どもたちの成長過程を見守っておられる．小沢 浩先生は『いのちの授業』に取り組まれ，子どもたちがいのちに向き合うきっかけを作っておられる．澤田由紀子先生には子どもたちのメンタルヘルスについてプライマリ・ケア医にも介入の余地があることを教えていただいた．岩室紳也先生は性教育を通してその根底にある問題に目を向ける必要性を訴えられた．土井たかし先生からは京都府下における体験参加型喫煙防止教育について詳細にご紹介いただいた．

総論では学校医・園医の役割を俯瞰的かつ具体的に示されており，特にこれから学校保健に関わり始める先生方にはとても分かりやすい入門書のような内容になった．初めの一歩としてぜひご参照いただきたい．

各論からは，取り組みの切り口が別々であるにもかかわらず『子どもたちを育む』『周囲の大人たちを成長させる』『社会問題に目を向ける』という共通の思いが感じられ，各々の取り組みは全て地域づくりなのだと実感させられる．

診療所時代に『子どもは社会の宝である』と実感した．読者が社会の一員として子どもたちを支え育み，その結果大人も成長し，地域の課題にも目を向け，全世代みんなで地域を作っていく，その一助となれば幸いである．